とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	太陽の子　三田保育園
施設所在地	東京都港区三田1-2-18 TTDビル2F
法人名	HITOWAキッズライフ株式会社

１．活動のテーマ

＜テーマ＞

運動

＜テーマの設定理由＞

（テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など）

本園では廊下をサーキットとし、1歳児クラスから巧技台やフープ、平均台などの運動遊具で楽しく身体を動かす活動に取り組んでいます。また公園では鉄棒や縄跳びにに挑戦しています。「どうやったらできるかな」「できるようになりたい」と子どもたちが興味を持ち意欲的に取り組む中で、様々な体の動かし方や運動の楽しみをより深めるため本テーマを設定します。

また、散歩先で運動遊具に興味を持つ、公園で鬼ごっこ、ボール遊び、縄跳び等身体を活発に動かす機会が多く見られたため。
また、本園では廊下に巧技台やフープなどを設置しサーキットと称して1歳児クラスから身体を動かす活動に取り組んでおり「どうやったらできるかな、できるようになりたいな」と子供達が興味を持ち意欲的に取り組む中で様々な身体の動かし方や運動の楽しみをより深めるため。

２．活動スケジュール

4月～7月　室内でバランスストーン、巧技台を使って運動遊びをしたり、戸外で鬼ごっこ、運動遊具で身体を動かし遊ぶ事で運動遊びへの興味関心を探る
8月～すくわく担当者が安田式のサイトがんばりまめ.comを見て運動遊びを学び目的と内容についてまとめを作り共有、全スタッフ安田式導入の動画視聴、安田式の導入
8月26日　搬入、講師指導　各クラスそれぞれ講師より安田式運動遊びを講師と一緒に楽しむ。その際に平均台、鉄棒、マット、トランポリンを使用。保育者は午後の反省会で更なる内容理解、声掛けの方法、子どもへの対応や指導法、運動遊具の扱い方(トランポリンの膨らませ方等)について指導を受ける。
9月～11月　引き続き各クラス時間を決め安田式の運動遊具を使いながらサーキット遊びを行い、日々の繰り返しの活動の中で活動を行った日はクラスで内容の見直しとドキュメンテーションを通じて保護者へ取り組みを伝えた。
９月６日　安田式運動遊びを行う中で子どもたちが一番生き生きしている姿、積極的に楽しむ姿を保護者へも見てもらおう、と考え、2歳児がサーキットを発表会で発表。
11月５日　安田式.comで学んだ内容を参考にして幼児が運動会で園独自のサーキットおよびミュージック体操を発表
12月3日　安田式講師による体育あそび指導、各クラス時間を設け「友達と一緒に楽しむ」事に重点をおき講師との活動を行う。0歳児クラスも講師との活動時間を設ける、午後の反省会では保育者が日々の活動で取り組んでいく中での疑問質問に回答してもらい内容の見直しと共有
11月10日、27日、12月9日、23日、1月16日　地域交流の一環としてスタッフが安田式運動遊びを地域の方も一緒に楽しんでもらう機会を作る
12月、1月　運動会を経て以上児への憧れが強くなり他クラスの活動の様子を見学するなど異年齢交流の時間を設けながら子どもたちの興味関心や内容の見直しと実践

2月　体育遊び講師の再訪問

３．活動のために準備した素材や道具、環境の設定

（活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具）

購入品
・感覚統合を促す為にトランポリン、トランポリンを膨らませる機械
・緊張感を持ちながら集中力を身につける為に平均台
・筋力、持久力、挑戦力を養う為に鉄棒
・運動遊びの導入および子どもたちがリラックスして遊びに取り組む為、また安全に運動遊びが行えるようにマット
・それぞれの運動遊具の使い方、安田式の目的理解の為に講師(45000円/回×２)による指導およびのサイト(がんばりまめ.com、58000円/年)の登録(左記にかかる運搬費、交通費等も含む)

４．探究活動の実践

＜活動の内容＞

子どもたちへの浸透を図るため安田式の担当者をきめ担当者を中心に活動の展開および目の前の子どもたちに合うように内容のアレンジし活動を深められるようにした。

①安田式のサイトをみて普段の運動遊びの中に安田式を取り入れる－幼児と一緒に横転、仲良しケンケンなどを日ごろの運動遊びに取り入れた

②運動遊具を使い講師と一緒に遊ぶ、保育者は講師の指導のもと更に理解を深め子どもとの関わり方や声のかけ方の統一をし普段の運動遊びに運動遊具を取り入れる（１歳から５歳）

●情緒の絆を育むためにハイタッチを必ず入れた。

●マット、トランポリンを使ってみる－マットを使い保育者の真似をしながら運動遊びを楽しむ（横転、ハイハイ、くまさん歩き前後、左右、ケンケン、手繋ぎケンケン、じゃんけんケンケン等）、トランポリンを硬めに膨らませマットと同じ要領で使用し段階を重ねるごとに感覚統合を養う為に空気を入れる量を減らす。

●鉄棒、平均台を使ってみる－握るからスタートしぶら下がる、ぶら下がってお尻ふりふり、ぐーちょきぱー、つばめ、逆上がり等、平均台は平均台に座って両手を使い前に進む、平均台の下をくぐる、渡る、跨ぐなど真似っこから自分でやりたい物を見つけたり友達の真似をしチャレンジしたい幅が広がる

③活動内容をドキュメンテーションや発表の場を設ける事で保護者に発信、共有

④２度目の講師の指導（活動の振り返り）

・楽しんでいる様子を伝え成長発達の観点から「お友達と一緒に楽しむ」ことをメインに講師に内容のアドバイスをもらう。

・ゲームの距離が長い、内容が盛り沢山だと楽しんでいいても「出来ない事」に子ども自身がフォーカスを当ててしまう事があったので段階的に増やすよう変更。

⑤環境の再構築

●お友達と楽しむ中で「勝ち負け」にこだわる姿もあるので繰り返し「何回やってもいい」と伝えたり、活動の距離を短くする事で自分の順番が早く回ってきトライ＆エラーを何度も挑戦できる環境作りに変更した。

●遊具を使ってみる（０歳）マットを広げマットの感触を楽しむ、マットの上を歩く、ジャンプする平均台にマットを被せ坂を作り上り下りをしたり、マットのトンネルの下をくぐるなどマットに親近感を持たせた。

⑥運動会を通して以上児への憧れが強くなったので異年齢交流の中で安田式の様子を見せ合うなどの機会を作り、同じ種目でも簡単な物とチャレンジの物を２つ並べて選択式にするなどより子どもたちがチャレンジできる設定にした。（平均台を２台並べて赤はお尻すりすり、青は平均台の上を渡る等）

＜活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり＞

（活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等）

繰り返し、短時間、毎日、行う事で子ども達も「まだやりたーい！」の気持ちが残っているので次回取り組む際も「やった！やりたかった！、今日はしないの？」と入りがスムーズだった。また短時間という時間設定は子どもたちも挑戦する気持ちを継続的に持つことができどうやったらできるかな？と修正したり、心地よいポジションにシフトチェンジしたりする姿があり保育者が指導の声掛けをしそうになる所を安田式の目的を理解し見守りや「がんばってるね！」などの声かけに変更することで子ども達の意欲がどんどん増し運動遊びに積極的にチャレンジしトライ＆エラーを繰り返しながら達成へのプロセスを考えている姿があった。

短い距離、繰り返し何度も挑戦が出来る環境の中でいつの間にか出来るようになってる、保育者が声を掛ける前に自分たちで危機回避をする、ぶつかったら謝る、「一緒にしよう」と声を掛ける、など生活の中で育って欲しい姿が自然と身に付いていた。ゲーム形式で楽しむ事で普段は運動活動に消極的な子も繰り返しの中で楽しみを見い出し楽しみながら活動に参加する姿があり幼児は特に勝ち負けにこだわりを持ち始める年齢ではあるが「何回でもやっていいよ」の声をかけがる事がとても重要で、勝ち負けがあるからやりたくないと思っていた子どもたちも最初から最後まで「楽しい」の気持ちで活動する事ができた。

また活動内容のリクエストや「こうやってみたらいいんじゃない？」など提案もあり保育者が提供する遊びではなく子どもたちが自発的に内容を考え行う運動遊びに変化をし子どもたちも自分の考えが受け入れてもらえる事に安心感と喜びを感じていた。

５．振り返り

＜振り返りによって得た先生の気づき＞

・日々の生活、活動の中で、特に運動遊びなど「怪我をしないように」を保育者が常に考え危険が予測される兆しが見られると「危ないよ、やめよう」と声をかける事が多く子供自身が怪我をしない方法を考えるよりも先に保育者側が制限をかけ順番を守らせたり、怪我をしない人数で活動をする事をしていたが狭い空間でおはようハイタッチなどの簡単なゲームを行う事で空間認知能力が発達し危険を自分で避ける事が出来るようになり、また運動遊びの前にジャンプをしたり心拍数をあげる事で集中力が増す事を知り実践すると子どもたちが普段よりも集中し遊びに取り組む事が出来ていた。

・運動遊具を使った運動遊びは保育者も自分の経験からしか子どもたちに伝える事が出来ない為、導入発展させることが難しくどうしても「指導」になりがちで「足をもっと上げよう、手はここに置いて」と子どもの事を思って教えていた事だが、講師の指導のもと保育者がやる気を引き出す声をかける、アドバイスをしたくなるが子ども達の事を見守る、トライを前向きにとらえて褒める、短時間の活動を毎日繰り返す事で子どもたちのやる気を継続させることが出来、運動が好きな子はより積極的に取り組み、普段失敗する事に対して抵抗がある子や初めての事に対して慎重派の子どもたちも安田式の活動の時は楽しそうに取り組んでいた。

・担当者が主になりがんばりまめ.comを見て各クラスの活動の内容を提案をしたり、平均台に興味があるクラスでは導入でロープを床に一本引いてその上を歩くなど「導入」部分の活動が明確化し運動遊びの幅を広げる事が出来保育者の知識も広がり活動に幅を持たせることが出来た。特に乳児は環境を大きく設定しなくてもマット1枚、その場でジャンプしたり保育者とハイタッチする事が応答的関わりとなり情緒を築くプロセスとなる事を理解実践した所、子ども達も担任以外にもタッチを求める姿が出てくるようになった。

・保護者に安田式の内容と目的をドキュメンテーションで共有し発表したことで運動会の内容にも理解があり、「こんな事が出来るようになったなんて！」と感動と驚き等の声をいただき好きな事に熱中していく中で体力や体の使い方が身についている事を実感した。

・子ども達の事を第一に興味関心がある活動を広げてきたが、助言を多くしてしまう事があったので、子ども達は環境があればそこから自分たちの力で成長していく事、保育者に必要なのは最初の環境の設定と子どもたちの事を信じ静かに頑張る姿を見守る事、結果をみるのではなく過程を大切にし頑張る糧になるような声掛けこそが保育者の本来の役割ではと感じたので子どもの主体性を大切に子どもたちの活動を見守り今まで以上に寄り添った活動を心掛けていく。

今年は基本に忠実に実行し、型を学ぶ、子どもたちへの浸透に徹した。次年度はより自分たちのオリジナリティを出せるように発展させていきたい。

また安田式を通して地域交流も行ったが地域の方の反応は、地域の人は遊べる場所が限られており(特に乳児)、同じ年齢の子どもたちとの関わりも少ないと言っていた。今回の交流を通じて、保育園として、園外の子どもたちへの居場所を提供できるように価値づけを行いたい